



和泉式部 大茶会



平成31年3月2日(土) 13:00~18:00

会場：和泉式部 誠心院(新京極六角下ル)

呈茶料(お茶菓子付) **500円** **先着200名**

※呈茶はなくなり次第終了です

十二単撮影会(14:00~) 芳村直也氏による龍笛ライブ(①15:00/②17:00)



一遍上人誓願寺にて
和泉式部の来迎に遭遇する之圖

イラスト：中川 学



※写真はイメージです



龍笛奏者 芳村直也

兵庫県神戸市在住。
日本三名泉 有馬温泉に拠点を
置き、法人運営をする傍ら和楽器
演奏家としても活動している。

和泉式部と誠心院

和泉式部は天延二年(974)から天元元年(978)間に産まれたといわれる平安中期の歌人で、中古三十六歌仙の一人に数えられます。

冷泉天皇の皇子である為尊親王と恋をしますが、為尊親王は長保四年(1002)に死去、その死後、弟の敦道親王と恋に落ちますが彼もまた寛弘四年(1007)に早世しました。敦道親王との恋の顛末を記した物語風の日記「和泉式部日記」が有名です。その後、藤原道長の娘・上東門院彰子(一条天皇の中宮)に女官として仕えます。同僚に紫式部や赤染衛門がおり、共に宮中サロンを築きました。

寺伝では、娘の小式部内侍に先立たれた和泉式部は、この世の無常を感じ「女人往生」のすべを求めて書写山円教寺の性空上人を尋ねます。誓願寺の本尊 阿弥陀如来の靈験を教えられ、四十八日のお籠りの末「女人の身でも南無阿弥陀仏と一心にお唱えすれば、身の穢れも消えて往生できる」との教えを受けます。その後も誓願寺に参る以外は念仏三昧の日々を送り、その甲斐あって二十五菩薩に迎えられ弥陀の浄土へ往生しました。それ以降、女人往生を願う人があれば、和泉式部が歌舞の菩薩とお迎えに来て下さるといふ信仰が盛んになりました。誠心院の初代住職が和泉式部です。

主催：新京極商店街振興組合 協力：和泉式部 誠心院